

平成27年2月23日

第2次香芝市生涯学習課推進基本計画策定委員会
会長 萩原雅也様

第2次香芝市生涯学習推進基本計画ワーキング部会
部会長 萩原雅也

第3回 第2次香芝市生涯学習推進基本計画に係るワーキング部会
からの意見具申について (報告)

標記の件につきまして、別紙のとおり報告いたします。

ワーキング部会からの意見具申は以下のとおりです。

○基本計画(案)

1 第1章の趣旨

○計画期間に関する意見

- ・p3の計画期間で5年から7年に変えたが、最近では1年でも色々と変わっていく。5年でも長いスパンだと思うが7年というのは長すぎるし、その間に相当変化が起こると思う。

〈結論として〉

p71の全庁的な推進体制ができれば、その中で年度ごとに見通しや、大きな変化がある時には、具体的な議論もできると思う。そして、7年間の計画ではあるが、年度ごとに実施計画を進めていく中で当然計画も変わっていくものと思う。

2 第3章 計画の基本的方向

p32 基本理念でのキャッチフレーズ「学び、ふれあい、育ちあい、ともに地域で生かすまち香芝」について「学び」「育ちあい」をひらがなにしてはどうか。又、「生かす」を「活かす」にしてはどうかという提案に対して

- ・「活かす」の方が、生涯学習計画の中では良いと思う。効き目がある。役立つというのが、「活」です、「生きる」ならいいが「いかす」は「活」だと思う。
- ・「ふれあい」がひらがな「学び」「育ちあい」が漢字でも違和感はないと思う。
- ・「ふれあい」がひらがな「学び」「育ちあい」が漢字でもパッと見て違和感はないと思う。

〈結論として〉

自動詞の「生きる」ならいいが、何か他者に向けて「いかす」の場合は「活」というご意見でワーキング部会としては統一する。そして他の体系「ライフステージに対応……生かす」なども表記はあまり使わないので「活」にし、「学び」「育ち」もこのままにしておくことにしておく。

p33 政策体系図の基本目標の1つ目が「環境づくり」2つ目が「環境づくり」、3つ目が「地域づくり」、4つ目がまた「環境づくり」、5つ目が「体制づくり」になっている、ことについて違和感がある。つまり、中身は変えなくても、市民向けパンフレットなどをつくると、この4つが並ぶのでパッと見てちょっと違和感があると思う。例えば、2つ目を関係づくりにするとかの提案に対して

- ・3、4を入れ替えて「環境づくり」が並ぶようにしたら自然ではないかと思う。

- 例えば、「子どもと育ちあう関係づくり」にすると、その下も「子育てしやすい関係づくり」に変わるということになり、p35の文も「子育てしやすい関係づくりをめざします。」になるということ。また、p49も変わってくる。そうすると文章的に「環境」を「関係」に全て置き換えることはおかしいと思う。
- 大差はないが、部分的に表現するか、全体的に表現するかの差がある。そういう意味では全般的な「環境づくり」の方がいいのではと思う。

〈 結論として 〉

「環境づくり」の言葉をそのままいかして、3と4を入れ替えることでまとめておくことにする。

3 第4章 分野別基本計画

基本目標1 具体的な施策の柱 p40 芸術・歴史文化イベント等の振興についての意見として

- p40「芸術・歴史文化イベント等の振興」の現状と課題の中に本市には貴重な歴史遺産、継承されている重要な文化財がある、と記載されている。国史跡になっている、史跡尼寺廃寺跡はガイダンス施設が整備される。ただ、香芝市には尼寺廃寺跡だけではなく、史跡となっているのは平野塚穴山古墳がある。国の史跡になっているそれも取り上げてもらったらどうかと思う。

文化財・史跡については、二上山麓については旧石器文化の西の中心となっている。文章的にどう書けるかは別にして再考してはどうか。

- 昨年、東の旧石器文化の中心と言われる群馬県の岩宿遺跡と協力連携協定を群馬県みどり市岩宿博物館と二上山博物館で締結されたという経過もある。二上山で産するサヌカイトも旧石器時代に流通していたといわれている。遺跡もあり旧石器文化の中心になるという所が香芝市内にはあるということである。また、二上山博物館というのは石を展示している。二上山にあるサヌカイトや凝灰岩、それと金剛山とかと関連して石棺なども展示している。

〈 結論として 〉

具体的にどこまで書けるかは別にして、見直しをするということにしておく。

基本目標1 具体的な施策の柱 学校教育の充実についての意見として

○読書教育の推進関係

- p43「読書教育の推進」とp52「読書活動の推進」の2つの具体的取り組みがあるが学校での読書教育の推進の中では、図書ボランティアとあるが、「学校図書ボランティア」ではないかと思う。
- p43「今後は学校司書の配置についても検討を進めていく」と非常に踏み込みすぎかと

思う。

〈 結論として 〉

司書教諭、学校司書については、図書館法改正で学校司書の配置が出てきている。すぐにはなく将来において、学校司書の配置を進めることにはなると思う。ひょっとすると全学校に学校司書の配置が進む可能性があるので、それを踏まえてのことだと思いが再度表現について検討することとしておく。

○キャリア教育関係

- ・ p43 「③キャリア教育の推進」で「将来への不安や学校での教育と将来との関係が見いだせないことから」の文章はどうかと思う。「子どもたちは学校での教育と将来との関係に不安を抱かせることから」とあるが「見いだせないことから」は表現がきついのではないかと思う。「そのために学習の低下する心配がある。」で文章を切る。「そのことから学習習慣が確立しないことは個人の問題ではなく社会全体で取り組み」というが何をとり組むのかと思う。

そして、「学校教育との連携について企業等といっしょになって進めていきます。」は、「学校教育と企業との密にしながら推進していく」であればよくわかるのではないかと思う。

- ・ キャリア教育の推進のところで、具体的なところは「学校教育との連携について企業等といっしょになって進めていきます。」ということだと思ふ。学校から企業に体験で来たり、企業からゲストティーチャーとして招いて話を聞いたりコミュニケーション能力を高めるような、現場でそういうことをやっているの、そのことを少し加えると具体が見えてくると思う。
- ・ 今は中学校2年生で職場体験があるが小学校でも段階的に2年生頃からまちの探検などで市役所とか消防署とかの仕事を学んで、それがキャリア教育で今度は、自分たちが参加することになる。キャリア教育というのは進めていくのが非常に大事なことである、派遣とかで色々な問題があるが学校教育でキャリア教育を進めていくことと生涯学習との関連が多いにあると思う。
- ・ 幅広いキャリアというか、単なる職場体験だけではなく、働くことの意味とか、どんな働き方があるのか、地域ではどんな仕事があるのか、どこまで書けるかはあるが、幅広いキャリア教育を学校内外の連携で進めていくことをイメージして書いてはどうか。
- ・ キャリア教育の6行中には、学校教育を否定するような、キャリア教育に不安があるから学習意欲が低下しているというようなことが書いているが、そしたらどう具体的な取り組みをするのか。ということなら細かいところまで載せる必要はないが、小・中・高12年でキャリア教育をどうするか。という所がほしいという気がする。
- ・ 世の中には、いろいろな働き方があるよということ、ドイツでは小学生の10歳で親と先生と本人で将来について話し合う。10歳から上の学校に行く必要がなかったら職人になるために親方に就いて技術を身につける。そうすると本当の立派な若い職人が生まれる。

日本では、とりあえず大学まで出て、大学出る時に就職しにくいから院まで行く。それでも結局正社員になっていない。就職したけど思った仕事ではなかったらやめる。転職はどんどん条件が悪くなるというような傾向がある。すごい悪循環になっている。

- ・キャリア教育の中で職場体験をするのに、学校の先生が企業回りをしてお願いに行っている。そういう現実の中で、地域と手を結ぶパートナーシップ事業の中での協議会を利用して、それらのメンバーが地域の中に、キャリア教育を入れながら職場体験も事業所と調整していくようにすれば、学校の先生方も非常に助かるのではないかという話しをしている。そして、企業もそうだが、やはり行政が、学校地域コーディネーターや学校地域協議会など色々な組織と一体となつての推進が大事ではないかと思う。

〈 結論として 〉

色々な意見を聞いた中で、もう一度キャリアの記述内容を精査することにしておく。

○幼・保・小・中・高・大学との連携関係

- ・ p44 「幼・保・小・中、高、大学との連携」の「小・中学校と香芝高校との連携による」とあるが、これは「市内の高校」でいいのではないか、学校名は要らないのではないかと思う。中高連携は非常に大事だと思う。そして生涯学習とも大いに関係する。それから「今後は大学のインターシップ」とあるが香芝市内には2つの大学があるので「市内の大学からのインターシップ」という言葉を入れたらいいと思う。生涯学習とも大いに関係する。それから「今後は大学からのインターンシップ」とあるが香芝市内には2つの大学があるので「市内の大学からのインターンシップ」という言葉を入れたらいいと思う。

〈 結論として 〉

p44の香芝高校は確かに具体名なので、「市内の高校との連携」「近隣の高校と連携」とかにして、大学のインターンシップも「近隣の連携を進めている大学」などの表現を検討することとしておく。

基本目標1 具体的な施策の柱 p46 生涯スポーツの推進に関して

- ・ p44 「生涯スポーツの推進」で、この課題の主語がどれなのかわからない。「市民のだれもが、それぞれの体力、年齢、目的に応じて、いつでも、どこでも、だれでもスポーツに親しむことのできる」は分かるが、それなら、「生涯スポーツ社会を実現するためには、p46 「市民のだれもが…」とつながっていけば意味が通じるのではないかと思う。また、「市民スポーツ・レクリエーション活動」という図にある、「運動のための体力向上」というのはどういうことなのか。「健康のための体力向上」ではないかと思う。さらに、専門家は「スキルアップ」という言葉をよく使うが、市民の方へは「技術向上」でいいのではないか。横文字をあえて入れる必要はないと思う。そして、「生涯スポーツの推進」「支える、観る、する」となっているが「支援、観戦、活動」と言う文言でもいいのではと思う。

- ・運動をするには体力が必要で、運動をすることによって体力がつく、生活のためというのは、高齢化もあり、レクリエーション活動などを通して体力が向上することでこれは分かる。生活と健康はよく似たものかもしれないが、健康を維持する増進するための体力向上ということでは、子どもも健康のために運動をすると思う。
- ・体を動かすと言うのは、人生をよりよく過ごしていくための健康、ベースとなる力をあげるのが保健体育活動だと思う。「生活のための体力向上」は重要だと思うのでそういう視点で考えてほしいと思う。

〈 結論として 〉

生涯スポーツのところは、最初の文章は、生涯スポーツ社会の定義がかかっている。「市民のだれもが……生涯スポーツ社会の実現が求められています。そのためには、地域のスポーツ機会の確保・充実が重要な条件となります。」とすれば、生涯スポーツ社会の定義をあまり崩さずに済むと思うので再考することとしておく。

基本目標3 具体的な施策の柱 p62 生涯学習の普及啓発に関して

- ・p63 人権のところ、「女性、子ども、高齢者、障がい者、外国人等の様々な差別の解消や」とあり、子どもの差別というのはよくわからない。それと、「知る権利、プライバシーの保護のために、市民への啓発を推進します。」とあるが、市民への啓発は、差別の解消も含めて全体を受けているのか、つながりがよくわからない。「生活弱者に対する偏見をなくし」も生活弱者なのかと思う。
- ・県で人権に力を入れるということで「子どもの女性局」というのをつくっている。女、子どもはまだ守ってあげなければいけないという、どうしてこうなのかと思う。「④男女共同参画社会」ではあるが女性の活躍のための学びなおしが重要であると書いてあるが、学びなおしは女性のためだけではなく、これは社会で就労するための生涯学習であって、家庭と仕事の両立「ワークライフバランス」はもう定着してきたと思うが、文言が不十分な感じがする。もう少し広義に捉えてメッセージ性のある文にできないのかなと思う。

〈 結論として 〉

③人権のところの「人権」を「人が人間として生きる権利」とあるが、あまり一般ではないと思う。「人が生まれながらに平等に持っている権利」が人権宣言ですが、再考したほうが良い。そして又、「差別」に係る「子ども」、「生活弱者」、男女共同参画に関して学びなおしや、キャリアアップといった言葉については、「意識の高揚」というところでもあるので、この点を含め再検討することとする。

4 第5章 基本計画推進に向けて

- ・ p73 目標値が43%、30%、54%となっているが、この数字は何かで計算して出したものなのか。根拠が記載されていないので。

〈 結論として 〉

「1年間に1ポイントずつの上昇を目指すこととし、下記のような目標値をめざします。」というようなことを書いておいた方がいいと思う。

5 基本計画（案）の全体を通しての指摘

文章中の言葉で「機会の提供」「場の提供」「機会の場の提供」という文言の違いを明確にしておく必要があると思う。

- ・ p38「学習機会の充実」現状と課題の5行目に「学習機会の提供の充実に取り組んでいく必要があります。」、基本的方向には「学習機会の充実を図ります。」「障がいのある人が気軽に参加しやすい機会の場づくり」とある。機会と場がどう違うのか、つかみにくい。表現を統一した方が良い。機会は講座を開いて来たい人はだれでもアクセスできる機会であり、場というのは人と人が出会うような場所を設定することを場という、すると「機会の場づくり」は何をいっているのかわからなくなってくるので整理した方が良いと思う。

分野別基本計画において、現状と課題で触れていることが、繰り返し具体的な取り組み内容にでてくるところがあるが、そこは、整理が必要かと思う。

- ・ 例えば、学校教育の充実のところでも p42 に現状と課題の文章がかなり沢山あり、基本的方向もよくわかるが、p43 にまた似たような表現がでてくる。「①地域社会に根ざした教育活動の推進」で「子どもたちが、様々な学習活動に進んでかわり、自分の課題を見出し解決できるような教育活動を展開していけるよう」とあるが、あらためてここに書く必要はなく、ここはあっさり「学校と地域との連携を図ります」でいいと思う。具体的内容はやることを書けばシンプルになり、読みやすいと思うので検証した方が良いと思う。